

しんじょつ



第2回

韓国カワウソ使節団報告

すさき・かわうそクラブ会報 No.2

発行：すさきかわうそクラブ事務局

2003. 4. 20

韓国の求禮郡を流れる瞻津（ソムジン）川。この川では現在も30頭ほどのカワウソの生息が確認されている。



かわうそに会いたい!! 韓国カワウソ使節団探訪記

昭和54年を最後に、カワウソが私たちの前からその姿を消して、既に20年以上が過ぎました。私たちの暮らす須崎市には、今なお豊かな自然が残っていますが、それでもカワウソにとってはすみづらい環境になってしまったようです。カワウソにとってすみづらい環境は、私たち人間にとっても良い環境とはいえないのではないのでしょうか。現在、須崎市ではカワウソと共生できるまちづくり、「かわうそのまちづくり」に取り組んでいます。その一環として、実際にカワウソが生息している韓国の求禮（クレ）郡に、昨年に続いて2度目の使節団を派遣し、調査研究、文化交流を行ってきました。

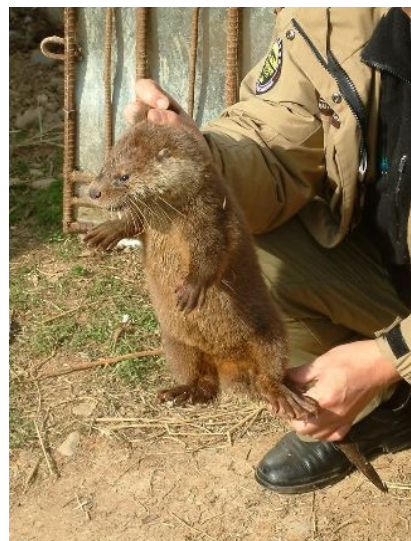
韓国カワウソ使節団

今回韓国カワウソ使節団として派遣されたのは、梅原市長を団長として、一般公募に募集してきた方を含めた総勢10名。みんな一目でいいからこの目でカワウソを見てみたいと思っている人たちです。

一行が韓国を訪問したのは平成14年11月26日～30日の5日間。現地ではそろそろ雪もちらつき始める寒い時期でした。

求禮郡は韓国の南部に位置し、韓国第2の都市釜山から車で3時間ほどの所にあります。人口は3万5千人で、郡内には1967年に韓国で最初に国立公園として認定された智異山と今回のカワウソ観察の舞台となった瞻津川が流れており、市街地から少し離れると、周囲にはのどかな田園風景が広がる自然豊かな町でした。

今回現地でお世話になったのは、韓国の野生動物の研究者で国立公園管理公団智異山管理事務所の韓尚勲（ハン・サンフン）先生、カワウソの研究者で韓国慶南大学教授の韓盛鏞（ハン・スンヨン）先生、智異山自然環境生態保存会会長の禹（ウー）さん、同保存会スタッフの崔（チエ）さんなどの方たちです。



洪水で親とはぐれたところを保護された子どものカワウソ（メス）。須崎市と求禮郡の友好の証として、梅原市長によって『真情ちゃん』と名付けられた

カワウソに会いたい

今回の使節団には大きな2つのテーマがありました。ひとつは韓国の文部科学省にあたる文化財庁と求禮郡の郡主を訪問し、日韓のカワウソを通じた人と文化の交流の基礎をつくること、もうひとつが実際にカワウソが生息している環境にふれ、カワウソの生態などの調査研究を行うことでした。特に今回は現地で子どものカワウソが2頭保護されており、生きたカワウソを直に見られるということで、使節団一同楽しみにしていました。

カワウソとの出会い

2匹のカワウソは、国立公園管理公団智異山管理事務所の手



川原に残されたカワウソの足跡。指の跡が5本きちんと砂に残るのが特徴。この他にもカワウソのフンも数多く見られた

文化財庁を訪問

韓国の文部科学省にあたる文化財庁を訪問したのは、韓先生と使節団のうちの市長以下5名でした。当初、天然記念物課長が応対をするとのことでしたが、当日は文化財庁長官が一行を歓迎してくれました。

長官の話では、韓国ではまだまだカワウソが数多く生息しているが、河川改修などの環境破壊で個体数が減ってきているとのことでした。韓国でも、カワウソは美しい川と自然のシンボ

すさきいきもの自然史紀行 ～身近に暮らすなかまたち～



ニホンカワウソ

Lutra lutra whiteleyi Gray
(撮影：鍋島昭一氏)

ニホンカワウソは、かつては北海道から鹿児島まで日本の各地に生息していましたが大正～昭和初期の毛皮を目的とした狩猟によってその生息数は急激に減少し、日本の各地から姿を消していきました。さらに高度経済成長の時代には、カワウソの住む河川の水は汚染され、護岸工事などにより生息場所が壊され、住める環境が瞬く間に失われてしまいました。1960年代以降は、高知県、愛媛県でその生息が確認されるだけとなり

1965年には国の天然記念物に指定されています。

1979年に新莊川でニホンカワウソが目撃されたのが最後の記録になっており、その後の目撃情報はあつたものの、今日では幻のような存在になっています。そのため、その生態は詳しくは知ることができませんが、過去の生息記録などから、カワウソは夜間に餌をとったり、遊んだりする夜行性であると考えられています。またカワウソは大きな音を立てて水に飛び込むことでも有名ですが、そのような行動をとる理由も詳しくは分かっていません。一説には、カワウソが水に飛び込んで遊んでいるという説もあります。主に魚を食べますが、新莊川ではモズクガニやテナガエビなども多く獲っていたと考えられます。

カワウソは河川や海岸部での生態系の頂点に立つ動物です。カワウソが生息できる河川や海は、餌となる動物が豊富に生息している証であり、自然が豊かなことを示しています。カワウソこそ美しい川と自然のシンボルなのです。

カワウソ使節団 記録写真

川原でカワウソの生態調査をする使節団のメンバー



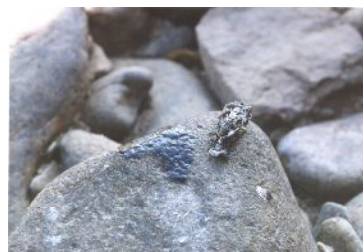
多勢の人に囲まれ物陰に逃げ込む眞情ちゃん



久禮郡の料理は豊富な野菜を使ったキムチ料理がメイン。辛い物が苦手な人にはチョッと辛いかも…



日韓友好を誓って記念



川原で見つけたカワウソのフンとタール便。



求禮郡庁を訪問

求禮郡庁でも郡主（日本の市長にあたる）自ら一行を出迎えてくれました。郡主も我々一行に対して大変好意的で、このカワウソがつなぐ、須崎市と求禮郡の友好関係をさらに深め、で

ルとして人気があり、いくつかの自治体のシンボルになっているそうです。
日本からこのような使節団が訪問するのは初めてで、カワウソ保護の面でも日韓友好の面でも大変喜ばしいことで、ぜひとも今後もこのような交流を継続して欲しいとのことでした。

命名『眞情』ちゃん

求禮郡での視察の最終日、カワウソの命名式が行われました。これは韓先生からの申し入れて保護されているカワウソのうちの1頭に須崎市の使節団が名前を付けるというものでした。このカワウソはいずれ自然に帰すものですが、それまでの間、里親に須崎市がなるわけです。

きれば今後はカワウソだけでなく、人や文化面での交流にまで発展させたいとのことでした。須崎市側にも当然異論は無く、今後の友好的な関係を築いて行きたいとの回答をしました。

視察団は塾考の末、このカワウソに『眞情ちゃん』と名づけました。これはもちろん須崎市を流れる新莊川からとったもので、今後の須崎市と求禮郡の眞の友情を願う意味でこの名前をつけました。
今回の使節団は、カワウソを直に見ることができた意味でも韓国との友好関係を築く意味でも大成功でした。この成功を今後の『かわうそのまちづくり』に生かしていきたいと考えています。須崎市にカワウソが再び生えるようになり、私たちと共生できるようになる、そんな日を目指して。

—真夜中のカワウソ観察会レポート—

『真情ちゃん』との出会いで、生きたカワウソを見るという大きな目標を果たした使節団ですが、もうひとつ、野生の状態に川に生息しているカワウソを見るという大きな目標があります。特に前年の使節団はカワウソを見ることができなかっただけに、「今年こそは!!」との強い想いもあります。カワウソは夜行性なので、観察会も当然夜間となります。求禮郡に到着したその日の午後8時、小雪の舞う中で観察会は開始されました。

観察会は、サーチライトで川原を照らしながら車を走らせ、カワウソがよく出没する場所を巡回する方法で、ガイドは地元の野生生物保存会のチェさんでした。

川原には、タヌキや鹿・鳥類など多くの生き物が見られ、今なお多くの自然が残されている様子がうかがえましたが、残念ながらカワウソは姿を見せてくれません。チェさんは何とかして我々にカワウソを見せようと、今までにカワウソが確認できた場所を何カ所も回ってくれましたが、残念ながらこの日はカワウソには出会うことはできませんでした。

2日目。昨日の空振りにもめげず川原に乗り出す一行。しかしこの日もカワウソは姿を見せようとしません。チェさんは「今日こそは!!」の思いも強く、とても車では入り込めないような川原に車を乗り入れますが、カワウソの現れる気配は全くなし。一行にあきらめムードが漂い始めたその時、チェさんの「スッダル（韓国語でカワウソ）」の声。チェさんの指差す方を凝視すると、そこには、暗闇の中、川の対岸近くを泳ぐ2頭の小さなカワウソの姿が。初めて見る野生のカワウソの姿に感動しながらも、脅かさないよう一同は意気を凝らします。それを知ってか知らずか、2匹のカワウソは5分ほど仲良く泳ぐ姿を我々に見せた後、暗闇の川に消えていきました。

その後しばらく車を走らせると、またカワウソが出現。今度はかなり大型で距離も近く、肉眼でもはっきりと見えるほど。岸に泳ぎ着き、捕まえた魚を食べる姿もはっきりと見えます。カワウソは我々人間の気配に警戒する様子を見せながらも、おいしそうに魚を食べ終えた後川の中に飛び込み、優雅に泳ぎながら我々一人の前から姿を消しました。

カワウソに出会えたことにすっかり気を良くした一行は、チェさんへの感謝の気持ちを胸に、浮かれ気分で帰路に着いたのでした。



↑ 小雪の舞う寒いなか
真夜中の観察会は続きます

伝言板

すさき・かわうそクラブでは会員を継続して募集しています。ご家族やお友達などに声をおかけください。

お問合せは事務局までお願いします。

(すさき・かわうそクラブ事務局)

須崎市企画課

〒785-8601

高知県須崎市山手町 1-7

TEL 0889-42-5691

FAX 0889-42-7320



須崎市では、『かわうそそのまちづくり』の一環として、環境美化活動を行う際の環境活動標語を募集したところ、市内外から635名の方から1063点ものご応募をいただきました。ご応募いただいた方々に厚くお礼申し上げます。

審査の結果、金賞1点、銀賞および銅賞各10点が決定し、金賞には吉尾優さん(多ノ郷小学校6年生)の作品、『カワウソがすめる須崎のまちづくり』が選ばれました。

市長から表彰を受ける吉尾優さん
(多ノ郷小学校6年)



●かわうそそのまちづくり環境標語決定
『カワウソがすめる須崎のまちづくり』